

Topic 1

◇ 新学年へ 学習スタイルを変えていこう！

今の時期に意識することは、新学年の学習法です。学年が上がると学校での環境が変わり、いままでできていたことが出来なくなったり、新たにやらなければならないことが増えたりするため、勉強時間が減り、成績を落としてしまう人が出てきます。今やるべきことは何かを確認していきましょう。

【新高3生】いま受験勉強を始めても合格率65%！？

大学入試に備えて、本格的に勉強に取り組み始めた時期ごとの大学合格率は、高2の2学期85%、高2の3学期が65%という調査があります(ちなみに高3の1学期37%、高3の2学期24%！と急降下)。「早く始めなければならないことはわかっているけど、ずるずると日々の勉強(学校の課題や予習・復習)だけになってしまっている」人は要注意！受験勉強のスタートを切るための行動を起こそう！

①英文法を総復習する：

学校で習った英文法に漏れはありませんか？英語の基本は全て「文法」に詰まっています。文法を疎かにして長文読解だけに時間をかけても身につけません。まずは学校レベルの英文法はパーフェクトにしよう。

②受験英単語・英熟語を暗記する：

高3の4月までに受験英単語・英熟語帳を1冊ずつ仕上げよう。完璧に覚えるのではなく、受験に必要な英単語・英熟語の全体を把握することが目的。そして、高3の夏前までに2周、夏休みに3周日、9月以降に4周日ができれば、単語・熟語では他の受験生に引けはとらない語彙力が身に付きます。「1日10個ずつやって夏休み中によりやく1周が終わる」予定ではなく、1日4ページずつやって夏休みで3周を終わらせるくらいの回転率でやらないと、忘れる速度の方が速くて覚えている数は増えません。

③数学の教科書の問題をすべて解く：

数学を受験に使う人は、既習単元の教科書問題を全て正解させよう(例題、問、練習、章末問題など全て)。教科書の問題を全て正解できる力が受験数学の土台になり、応用問題を解く力を養成します。

④理科・社会は映像授業と教科書と資料集を活用：

受験に必要な映像授業を早めに受講しよう。映像授業では、志望校レベルごとに、合格するためのカリキュラムが組まれているので、早めに受講開始すると余裕を持って進めることができます。

【新高2生】成績を落とす人は、環境変化に弱い人！？

高2はよく中だるみの時期と言われますが、実は「環境の変化」についていけずに成績を落とす人が少なくありません。予測できる環境の変化や、苦手科目の克服は高1のうちに対処し始めておくことが大事です。

①文理選択科目に対応する：

文理選択の結果、より専門的に学習する理科・社会の負担が増えます。定期テストでも難易度が上がり、より細かく深い知識が求められるようになります。定期テストで思わぬ低い点を取ってしまうと、その後、補習やレポート提出など想定外の課題が課せられ、自主的な学習時間が圧迫されてしまいます。

また学校の授業対策については、理科は予習、社会は復習を習慣づけるとともに、2年次の予習を映像授業で今から先行して学習しておく、アドバンテージが得られます。

②時間管理能力を上げる：

高2になると部活や委員会で中心的な役割を負うことが多くなります。予習や課題提出など、今まで問題なくできたことが、時間に追われてできなくなる可能性があります。

曜日ごとの予習科目の時間配分を見直すこと、短い時間でできることを見つけ細切れの時間に割り振ること(英単語暗記などは細切れの時間だけで終わらせてしまう)、やらなくてもいいことを決める(1時間の授業に2時間もかけて予習するより、30分程度の予習で残りは授業で理解するという風に割り切る考え方も大事)など、進級を機に限られた時間を有効に使う術を身につけていこう。

【新高1生】油断大敵！成績の急激な低迷にご用心！

中3生は、高校生としての勉強法がイメージできない人が多いのではないのでしょうか。ポイントは、高校では、スタートは同じくらいの学力の人が集まっているので、中学時代に優秀だった人も、油断していると早い段階で成績下位グループになってしまうことです。逆に、中学時代は勉強が苦手だった人も、取り組み次第では、上位グループの成績をとり続けることができるということです。

高1の1学期の通知表の成績（クラス順位）が、高校3年間を通しての成績に近いものになると言われています。一度成績が落ちると、そこから挽回することがとても難しいのが高校の勉強の特徴です（高1の1学期の成績がそのあと3年間続く人の割合は80%以上!）。

①受験勉強が終わっても気を抜かない：

入学直後のテストでクラス5位以内をとるつもりで勉強を継続しよう。中学の復習より、高校の予習を優先させることがポイントです。そして予習を行う中で不安を感じる中学の学習があれば、それだけを復習します。とにかく高校の1学期で好成績をとることを目標に勉強時間を減らさないことが大切です。

②部活を言い訳にしない：

学習時間が減れば、どんなに優秀な人でも成績は落ちます。「部活の練習が長い」「疲れてしまって勉強できない」など、部活を言い訳にして学習時間を減らすことがないようにしよう。厳しい部活を続けても成績が良い人はいます。夜は早めに寝て疲れをとり、朝早く起きて勉強時間を確保するなど工夫次第で、好成績を維持することができます。

③高校3年間の勉強方針を決める：

高校卒業後の進路と、それを実現するための効果的な勉強法を考えよう。多くの人は、学校の成績が優秀であれば、その分だけ希望の大学や企業に進める可能性が高くなります。それは学校推薦がもらえれば、就職にも大学進学にも有利だからです。つまり、学校の成績（通知表）を上位グループで維持するための効果的な勉強法を実践する必要があるわけです。また、大学受験をして希望の大学に合格したいという目標を持っている人は、学校のテストはもとより、模擬テストで偏差値を志望大学に合格できるレベルまで引き上げるための勉強法が求められます。

高校生になって学校成績を上げたい人、大学受験に向け模擬テストの偏差値を上げたい人、それぞれにあった高校講座が俊英館 Flex にはあります。進学先の高校が決まったら、いい形で高校の学習がスタートできるように、勉強法や受講講座を担当の先生に相談してみよう。

Topic 2

◇ 高2・1生 センター試験を肌で感じよう！

2016年1月16日(土)、17日(日)に大学入試センター試験があります。高2、高1の皆さんも実際に解いてみて、センター試験のレベルを肌で感じてください。

【新高3生】「AU20 高2センター即日模試」を受験しよう！

高3と同じ本番のセンター試験の「英語、数ⅠA、数ⅡB、国語」を受験してみよう。AU20 高2センター即日模試では、本番さながら模擬テスト形式で受験することができます。

すでにセンターの出題範囲は、ほぼ学習が終わっているはず。1年後の志望校の合格ラインの得点（最難関国立大90%、難関国立大80%、中堅国立大70%）から20点引いた点を目標点として、その目標点が取れるかどうかを確認して、現時点での苦手単元の克服に着手しよう。

【新高2生】既習科目のセンター試験を、時間を計らずに解こう！

高1生は、「英語、数ⅠA、現代文」を受験してみよう。時間を計らずにじっくり解いてみて、どのくらい解けるのか確かめてみることをお奨めします。その際、英語や現代文では、辞書を使っても可。数学で解き方を調べても可。現在の持っている力をフルに働かせて解いてみよう（あきらめて、答えを先に見てしまうのは不可）。センター試験の「難しさ」が実感できるはずですよ。



1 上智大 TEAP 利用型入試 2017 年度より出願資格が 4 技能へ

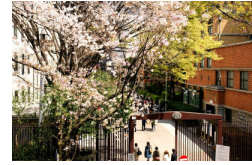
上智大学は 10 月 28 日、現高 2 生が受ける 2017 年度 TEAP 利用型一般入試から、すべての学部学科において、出願資格を 4 技能に変更すると発表した。2015 年度以降に実施する TEAP のスコアが有効となる。

同大では 2015 年度入試から「TEAP 利用型一般入試」を導入しており、年複数回実施される TEAP 試験のいずれかで、学科が設定している基準スコアを満たしていれば出願できる。入試当日には英語の試験は行わず、志願者は学科の指定する選択科目のみ受験。TEAP のスコアそのものは合否に影響されず、選択科目得点および調査書等により合否判定が行われる。

2016 年度入試では、TEAP 出願資格は 2 技能とする学部学科が多く、4 技能は文学部英文学科や経済学部、総合グローバル学部など一部となっていた。2017 年度入試からは、すべての学部学科が 4 技能へと変更される。

◆TEAP

上智大学と日本英語検定協会が共同で開発した、大学で学習・研究する際に必要とされるアカデミックな場面での英語運用能力を測定するテスト。総合的な英語力を正確に把握することができるよう、「読む」「聞く」「書く」「話す」の 4 技能で構成されている。



2 法政大 「キャリアアップ奨励金」 税理士試験などの合格者対象の給付

法政大学は 11 月 16 日、2015 年度に実施された資格試験合格者に給付する奨励金制度「L・U(リーディング・ユニバーシティ)キャリアアップ奨励金」の申請受付を開始したと発表した。税理士や気象予報士など、対象の資格試験の合格した学部学生に奨励金が給付される。

この奨励金制度は、L・U 募金による寄付金をもとに設けられた、法政大学の学部学生対象の奨学金制度。対象となる資格試験に合格した学生には、20 万円が給付される。複数の試験に合格した場合は、それぞれの試験について奨励金が給付される。

◆法政大学「L・U キャリアアップ奨励金」

制度概要: 下記の対象試験の合格者に奨励金(20 万円)を給付

対象試験: 気象予報士試験, 行政書士試験, 高度情報処理技術者試験(複数試験科目合格者は在学中 1 回のみ給付), 社会保険労務士試験, 税理士試験(複数科目合格者に在学中 1 回のみ給付), 中小企業診断士試験, 通訳案内士試験, 不動産鑑定士試験



3 英語の外部試験 新テストでの活用, その課題は?

大学の一般入試で広がりつつある英語の外部試験活用。TOEFL や TEAP などの基準スコアを満たしていれば、英語の試験が免除される。文部科学省が進める入試改革では、センター試験の代わりに 2020 年度から導入される新テストでも活用が検討されている。これは、4 技能のうち「話す」は、一度に多数の受験生に対して試験を行なうのが難しく、外部試験を活用するのが現実的であることが背景になっている。

2020 年度から始まる新テストに、外部試験を活用するにあたっての問題点は何か? 今は各私立大学が独自に基準を設定しているが、国公立大学の 1 次試験として使われる新テストに全面的に導入されるとなれば、公平性の確保が大前提となる。外部試験の受験料負担の観点から、経済的に恵まれた受験生が有利になる可能性があるからである。また、欧米で使われる CEFR(セファール)のような公式の対照表を作ることが求められている。例えば、TOEFL の 100 点は TEAP の 350 点に相当するなど、具体的な数字が示される必要があるからである。しかし、外部試験はそれぞれ運営団体が違うため、調整が難しいなど、いくつかの課題が指摘されている。

■ 入学までにまとまった金額が必要！

奨学金が利用できれば、大学進学に関するお金の心配がすべてなくなるわけではない。というのは、各種奨学金が実際に自分の銀行口座に振り込まれるのは、大学に入ってからである。しかも多くの場合、一定額を毎月受け取るタイプが多い。つまり、入学までにかかるまとまった費用(学校納付金など)は、奨学金でまかなえないのである。

また、一般入試でなく推薦入試や AO 入試を経て、入学を決める人も多い。そうになると、学校納付金などは、秋から冬にかけての早い段階で用立てる必要がある。実際、せっかく合格しても「期日までに学校納付金を払えない」と、大学や高校へ相談するケースも増えているという。

■ 教育ローンでカバー！

こうした、入学までに払い込む必要がある費用をまかなう手段として、「教育ローン」がある。教育ローンとは、大手銀行をはじめ、各地方銀行や信用金庫などの各種金融機関が、大学進学にかかるあらゆる費用をまかなうことを目的に貸し出す金融商品である。借りられる金額も十万円から数百万と幅広い。保護者が契約者となり、ローンを返還していく。ローンなので、当然利子がつくが、ほとんどの場合は年利 3%前後となっている。利用する際の注意点は、金額が大きいので借りすぎないことである。借りる額が増えるほど、返還金額が増え、返還期間も長くなるからだ。

■ おすすめは「国の教育ローン」

このローンは、各都道府県に必ずひとつはある日本政策金融公庫がメインの教育ローンに比べても、金利が低く設定されていることが魅力である。2015年4月の時点で、2.15%の固定金利となっている。また貸付限度額は 350 万円までとなっている。

利用にあたっては、子どもの人数によって世帯年収の上限が定められているが、これをクリアすれば、大学や短大、各種専門学校、海外留学まで、幅広い用途に利用できると言うメリットがある。

★ 国の教育ローン

概要

窓口は各都道府県にある日本政策金融公庫と各金融機関。

350万円まで貸付可能

(最長15年間[179回]かけて返還していく。母子家庭、交通遺児家庭などの返還期間は最長18年間)。

ほとんどの学校の入学に関連するさまざまな資金に対応している。

入学資金が必要な場合、受験前、合格発表の前でも申し込みができ、キャンセルも可能。

利用にあたっては、ひと世帯あたりの子供の人数に応じて収入(所得)の制限がある。

返還例

★100万円 借り入れた場合(年利2.15%の固定金利で計算)

返還期間………10年間

毎月の返還額…9,338円(119回払い)

返還総額………1,111,222円

